

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371100716		
法人名	株式会社フレンズハウス		
事業所名	グループホーム フレンズハウス七番町 1階		
所在地	愛知県名古屋港区七番町五丁目12番地		
自己評価作成日	平成26年9月15日	評価結果市町村受理日	平成26年12月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市東区百人町26 スクエア百人町1F		
訪問調査日	平成26年10月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>毎日の生活の中で利用者様が役割を持っていただき、自立支援を目指しております。利用者様との何気ない日々の会話の中からその方々のニーズを見つけ出し、計画作成担当者を中心に職員全員で話し合っ介護計画を作成し、その人らしい支援ができるよう心がけております。2ユニットであるため、それぞれ行き来したり、デイサービスと併設しているため、季節行事など合同で実施し様々な方と交流を深めております。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>地域とは、散歩中の挨拶やゴミ拾い、年間の行事を通じて、日常的に関わりを持ち、介護フェアーや認知症サロンなど、地域福祉発展のため区と協力して参加している。地域住民との交流会、家族参加の1泊旅行、季節に合わせた外出行事を多く実施し、利用者の楽しみとして良い刺激になっている。家族と共に介護計画を考え、利用者の慣れ親しんだ生活習慣や得意分野に合わせ掃除や洗濯など役割を持ち、利用者個々が思い思いに毎日を過ごしている。職員は、認知症ケア向上に対する意識が高く、管理者は今後さらに「認知症に対する理解を深めていきたい。」と考えている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域とのふれあい、かかわりを大切に積極的に取り組んでいる。事業所理念を掲示し、毎日朗読して共有している。	毎日、13時から職員が多く集まる時間に、理念を唱和している。理念を意識し、利用者との慣れあいにならないように気をつけている。管理者は、迷いや悩んだ時は理念に立ち戻り、利用者に接するよう指導している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加や散歩時の挨拶、フレンズニュースの回覧などを行ない、地域との交流を深めている。入居者様の中には近隣に住んでいた方もみえる。	小学校や中学校との交流、お祭りや避難訓練に参加し、年間を通して地域と関わっている。今年度は、学区の交通指導員として利用者と職員で参加し、地域に貢献することができた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に施設訪問やボランティアなどして頂き、理解を深めて頂いている。いきいき支援センター主催の「認知症の家族教室」講師を行い地域の方へ専門職としての関わりを伝える。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回、町内会長に参加して頂き、地域の行事案内や地域の方からの相談、ホームの状況報告などを行っている。	昨年の外部評価後、会議への家族参加を課題に挙げ、今年度から家族が参加するようになった。家族からは、「利用者の様子やグループホームの取り組みが理解できるようになった。」と好評を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	港区事業者連絡会に入会して、担当者話し合う機会を設けている。また、区役所の保護係との連絡をとり、状況報告をしている。	毎月、ケアプランを持参し利用者の近況やグループホームの取り組みを伝えている。港区事業者連絡会やいきいき支援センターの会合に参加し、市職員と定期的に意見交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に参加し、またマニュアルに従い職員は身体拘束を行わないよう共通理解しているが、職員がいないのを確認し、玄関より出て行かれる入居者様が見える為、安全確保のため玄関を施錠している。	施設として身体拘束廃止の指針があり、指針に沿って指導している。外部研修や社内研修を通じて身体拘束について理解を深め、言葉使いにも注意している。早朝や夜間は、防犯や安全のため玄関の施錠をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者および職員全員が高齢者虐待防止関連法を学び理解し、事業所内にて虐待行為が見過ごされないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の中にも利用されている方がいるので、その都度説明をし、理解・活用の支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の内容は契約時に全て読み上げ、疑問点などはその場で説明させて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎日の利用者様との会話の中で意見や要望を聞き取りながら運営に反映させている。ご家族様は直接、管理者や職員に意見・要望を伝えられることが多い。	利用者からは、普段の何気ない会話の中から情報を収集し、毎月の行事に反映させている。家族からは、面会時やアンケート、手紙でのやり取りで聞き取り、権利擁護や身元保証人との意見交換も行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回、人事考課及び面談を行い、法人・管理者に対して提案などを訴える機会を設け、反映させている。	人事考課として、年2回個別面談、全体としては、月1回のミーティングで施設運営や処遇についての意見交換をしている。代表者とは月1回の運営会議で話し合い、施設運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス規程により、職員が今後の目標をもって、また向上心をもって勤めることができるよう定めている。またなるべく残業をしないように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時、3日間の現場研修を行なっている。また、年2回自己評価の機会を設け、レベルアップにつなげている。外部研修にも交代で参加し、研修内容の勉強会を行い職員間で共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に一度の事業者会の会合に参加し情報交換を行ない、向上を目指している。研修で参加した同業者と情報を共有し報告会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談やアセスメントをしっかり行ない、困っていることや不安に思っていることなどを聞き取り、話し合いながら信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の声をしっかり受け入れ、その場で話し合い、要望などは現場にも報告し、取り入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様の要望はケアプランにも取り入れ、改善に向け相談し連携をとり、信頼関係につなげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の得意分野は色々教えて頂きながら、利用者職員が助け合って生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の訪問時には近況や過去の情報交換をするなどして、ご家族様と共に支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様がずっと通っていた美容院や喫茶店などがある場合は、ご家族様に協力して頂くなどして継続的な交流を支援し、馴染みの場所や人との関係が途切れないように努めている。	長年通った美容院や郵便局での交流、地域住民の訪問も多く、地域との関係が継続できている。新たに近所の喫茶店でも馴染みの関係となり、住民やスタッフとの交流も楽しみになっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ティータイムや散歩・行事など、共に楽しく過ごす時間を増やし、時には職員が間に入り関わり合いを深めるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	移転先の施設との連携を持ち、今までの生活が出来る限り持続できるように相談や必要に応じた情報提供を行なっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様一人ひとりの意向を聞き、それに近づけるように努力している。困難な時は、ご家族様の意見を聞くなどしている。	日常の会話や表情・行動から思いをくみ取り、家族の希望も取り入れ、意向の把握に努めている。発言や様子を個人記録や申し送りノートに記入し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族様よりバックグラウンドの情報提供をお願いして、生活暦を把握している。入居されてからも以前の暮らしぶり等を直接伺うようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの1日の様子などを記録し残している。また、申し送りなどで職員全員が現状を把握出来るようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状と介護計画にズレがないように、モニタリングやカンファレンスを行ない、変化に応じて変更している。	月1回モニタリングを行い、ミーティングで話し合い、3か月に1度介護計画の更新を行っている。更新時には利用者や家族の意見を聞き、その人に合った計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づいたことは個別記録の特記事項に記録する。また介護計画はケアチェック表に実践状況を記録し、その記録と日々の様子を毎月一回確認しながら次の介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様のニーズに対して、その都度の対応に心がけている。情報は申し送りや記録で共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会長と意見交換・情報共有している。また、地域のお店などを外出行事に利用して地域に溶け込めるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望があれば、かかりつけ医を主治医として頂いている。協力医療機関以外の受診は基本的にご家族様に行なって頂いている。受診時の情報などは、ご家族様より報告を受け、協力医に報告し、情報の共有とご利用者様の健康状態の把握に努めている。	利用前からのかかりつけ医へ、家族の支援で受診し体調や薬の内容を協力医に伝え、情報を共有している。協力医の往診は月2回で看護師も毎週訪問があり、24時間支援できる体制である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月に4回、訪問看護師が来られ、情報を共有し、連携をしている。往診の医師(月に2回)との連携も出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医師・看護師と情報を共有し、対応可能な段階で退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様と話し合い、意向にそえるように医師と連携をとり、相談の上、可能な限り支援出来るように努めている。	契約時に、重度化した時の施設の方針を家族に伝え、了解を得ている。「できる限り施設でケアを行いたい。」という思いのもと、重度化した時には家族と相談し、今後について検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については、マニュアルに従って対応出来るように努めている。管理者が到着するまでの対応は勉強会等で職員は周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、夜間帯を想定した訓練を含めて避難訓練を行なっている。また消防署の方に設備等の確認をして頂いている。非常用食料品などは、定期的に期限を確認し保管している。	年2回、夜間と昼間を想定した避難訓練を行い、地域住民にも回覧板で訓練のお知らせをしている。非常食も備蓄され、避難経路は施設内に掲示し、地域の訓練にも定期的に参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様一人ひとりの気持ちを大切に考え、さりげないケアを心がけている。	その人に合わせた愛称や馴染んだ言葉を使い、排泄時はさりげなく声をかけ、人目につかないよう配慮している。書類はイニシャルで記載、相談や悩み事がある時は個別で対応し、プライバシーを確保している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	必ず意志を確認し、職員の押し付け行為にならないよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ベッドメイキング・買い物・屋上での洗濯物の取り込みなど、個別対応を増やしその人らしい生活をして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの理容店があればご家族様に付き添いで行って頂く。または2ヶ月に一度、訪問理容を利用し、常に清潔を心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や盛り付け・配膳・片付けなどを職員と共にしない、楽しい食事になるように努めている。	食器洗い、片づけ、下ごしらえなど利用者ができることを職員と一緒にしている。量や形態、食器はその人に合わせ、利用者の好みを献立に反映させている。外食の機会も多くあり、食事が楽しめるよう工夫している。	外食の楽しみに加え、ホームの共有スペースや自慢の屋上を活用し、職員と利用者が一緒に食事を楽しめる機会が増えるよう期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分チェック・食事チェックなど個別に把握し、職員が共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけ・見守りを行ない、自分で出来る所まではしっかり行なって頂き、出来ない所は職員が行なうようにしている。ほう		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表などを使用し、個々の排尿感覚に合わせて声かけやトイレ誘導し、自立に向けて支援している。	普段と違う顔色や顔つきでサインを汲み取り、さりげなく、速やかに対応している。チェック表で排泄パターンを把握し、その人に合ったタイミングで誘導し、トイレの場所も見やすく表示している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い野菜を毎日多く摂取して頂けるように提供している。 ティータイムには牛乳を飲んで頂くなど水分補給も心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望に応じて入浴して頂けるように順番をずらすなどして、入浴日を増やせるよう工夫している。	週3回午後に入浴している。入る順番を毎日本人に確認し希望に添えるよう努めている。季節を感じられる入浴剤、湯温など気持ちよく入浴できる工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はレクリエーション・会話・散歩など取り入れ、活動的に過ごして頂き生活リズムを整えている。その他は自由に休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々に服薬ファイルを作成・整理し、内容を把握し、医師・看護師・薬局との連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの好きなことをなるべく活かせるように役割を増やし、生きがいを持って頂けるように配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出などの行事計画を立て、出かける機会を増やすよう心がけている。ご家族様にもご協力いただき、希望に添えるよう努めている。	外食ツアーや花見・初もうでなど季節を感じられる外出、毎日の散歩、喫茶店や買い物など、年間計画を作り外出の支援を行っている。一泊や日帰りの旅行にも出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、事務所にて管理しているが、入居者様のご希望により、おこずかい程度の現金を自己管理できる方のみ持って頂いている(ご家族様の了解済み)。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には事務所の電話を使用して頂いている。また、年末には一人ひとり年賀状の作成を、夏には暑中見舞いの作成を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分は皆様が使いやすいように配慮し、季節感を感じて頂ける窓際をくつろげる空間にしています。また、飾りつけも季節に応じて工夫している。	季節の飾り、外出やレクリエーションの写真、折り紙の作品などがたくさん飾ってある。ソファや窓際の畳のスペースでは、温かい日差しの下、利用者が一緒に会話をしたり寛ぐ姿が見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの椅子などは少人数で座って頂けるように工夫して、落ち着けるスペース作りに努めている。ソファや畳のスペースも設けており寛げるような配慮もしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様と入居時に相談し、使い慣れた家具や思い出の物を持って来て頂き、安心感を持って過ごして頂けるようにしている。	居室の入り口には、施設の住所・利用者の名前や写真を飾り、自分の部屋がわかるようにしている。使い慣れた家具を持ち込んだり、写真や生け花の作品を飾るなど、居心地良い居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	張り紙などで自分の居室がわかるようにしている。また、必要な場所には手すりなどを設置している。		